

会 議 録

会議の名称	令和5年11月定例教育委員会		
開催日時	令和5年11月16日 13時30分開会 15時01分閉会		
開催場所	つくば市役所本庁舎4階 401会議室		
事務局	教育局教育総務課		
出席者	委員	教育長 森田 充 委員 倉田 廣之 委員 柳瀬 敬 委員 和泉 なおこ 委員 成島 美穂	
	委員以外の出席者	教育局長 吉沼 正美 教育局次長 坂田 博之 教育局次長 久保田 靖彦 学校教育審議監 山田 仁巳 教育総務課長 山岡 めぐみ 学務課長 下田 裕久 教育施設課長 鈴木 聡 健康教育課長 柳町 優子 学び推進課長 岡野 知樹 特別支援教育推進室長 中島 澄枝 学び推進課参事兼総合教育研究所長 山田 聡 学び推進課参事兼教育相談センター所長 久松 和則 生涯学習推進課長 澤頭 由紀子 文化財課長 石橋 充 中央図書館長 柴原 徹 市民部スポーツ施設課長 武笠 健一 教育局企画監 青木 孝之	
公開・非公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
会議次第及び議事	1 開会 2 議事録承認 3 教育長の報告		

4	案件
(1)	議案第 58 号 つくば市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について（公開）
(2)	議案第 59 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(3)	議案第 60 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(4)	議案第 61 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(5)	議案第 62 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(6)	議案第 63 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(7)	議案第 64 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(8)	議案第 65 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(9)	議案第 66 号 教育財産の取得の申し出について（非公開）
(10)	議案第 67 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（公開）
(11)	議案第 68 号 つくば市民・学校プールの指定管理者の指定に同意することについて（非公開）
(12)	議案第 69 号 訴えの提起に同意することについて（非公開）
5	その他
6	閉会

◎会議の大要

1 開会	
森田教育長	それではただいまから令和5年11月の定例会を開催いたします。本日もお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。スムーズな会議進行に努めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
2 議事録の承認	
森田教育長	まず、議事録の承認ですが、令和5年10月定例会の議事録を委員の皆様事前に確認していただいております。その後修正等がないようでしたら、議事録を承認することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員一同	はい。

森田教育長	ありがとうございます。それでは署名人を成島委員にお願いしたいと思 います。よろしくお願いします。
3 教育長の報告	
森田教育長	<p>続きまして、次第の3、教育長の報告でございます。今回はつくば市サイエンスキッズリーグについて御報告させていただきます。学び推進課主催のつくば市サイエンスキッズリーグ 2023 決勝リーグを10月7日土曜日に学園の森義務教育学校で行いました。8月に行われた予選リーグの参加者が138名で、これを勝ち抜いた5、6年生の8チームと、7、8年生の8チームの計16チームの48名が科学に関する問題を解くという競技です。3人1チーム制で課題に対し、共同して実験を行い、結果から考察を導きレポートに結論をまとめました。レポート内容だけではなく、課題解決の過程も審査の対象とし、それらを総合し、それぞれの部から金賞2チーム、銀賞2チーム、銅賞4チームを決定します。公表は11月を予定しております。また、10月18日から24日にかけて、第67回茨城県科学研究作品展が行われ、つくば市からも県南展を突破した多くの作品が出品されました。小学校の部では、並木小学校が県議会議長賞、竹園東小学校の2グループがげんでん科学省に入賞しました。中学校の部では、竹園東中学校の2グループが県知事賞と県議会議長賞、みどりの学園義務教育学校がげんでん科学賞に入賞しました。例年どおり、高い評価をつくばの子供たちが受けていると思いますし、改めてつくばを科学の街とアピールすることができたのではないかと思います。</p> <p>それでは、本日の案件に入りたいと思います。本日は議案12件を予定しております。公開案件は、議案の第58号と第67号の2件になります。それ以外はすべて議会案件のために、非公開となります。案件の進め方ですが、いつものように非公開案件を先に審議し、後に公開案件を審議することとしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのように進めさせていただきます。
(11)議案第68号 つくば市民・学校プールの指定管理者の指定に同意することについて (非公開)	

森田教育長	<p>傍聴人の方はいらっしゃらないようですので、早速非公開案件の審議に入ります。</p> <p>議案第 68 号、こちらは市民部スポーツ施設課の案件になりまして、すでに説明者にお越しいただいておりますので、この案件から審議したいと思います。それではスポーツ施設課、よろしくお願いします。</p>
武笠スポーツ施設課長	(議案に対する説明)
森田教育長	<p>ただいまの説明に関して質問や確認事項等がありましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>(議案に対する質疑応答)</p>
森田教育長	他にはございますか。よろしいですか。それでは無いようでしたら承認することよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(2) 議案第 59 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(3) 議案第 60 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(4) 議案第 61 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(5) 議案第 62 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(6) 議案第 63 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(7) 議案第 64 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(8) 議案第 65 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
(9) 議案第 66 号	教育財産の取得の申し出について (非公開)
森田教育長	<p>続いて、議案第 59 号から第 66 号です。こちらはすべてみどりの南小学校とみどりの南中学校についての関連した議案でございますので、一括して取り扱いたいと思います。教育施設課、お願いします。</p> <p>(議案に対する説明)</p>
鈴木教育施設課長	

森田教育長	ただいまの説明に関し質問や確認事項がありましたらお願いいたします。よろしいですか。では承認することとしてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認することといたします。
(12)議案第 69 号 訴えの提起に同意することについて (非公開)	
森田教育長	続いて、議案第 69 号です。健康教育課、お願いします。
柳町健康教育課長	(議案に対する説明)
森田教育長	質問や確認事項がありましたらお願いします。よろしいですか。では承認することとしてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、承認するものといたします。
(1)議案第 58 号 つくば市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について (公開)	
森田教育長	<p>以上で非公開案件は完了しました。続いて公開の案件を審議したいと思いますので、傍聴人の方がいらっしゃいましたら入室させてください。</p> <p>それでは公開案件を議題といたします。議案の第 58 号、教育総務課、お願いします。</p>
山岡教育総務課長	議案第 58 号つくば市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について説明いたします。つくば市の執務時間を定める規則の改正に伴い、令和 5 年 10 月 1 日から、執務時間の定義がつくば市の休日を定める条例第 1 条第 1 項に規定するつくば市の休日を除き、午前 8 時 45 分から午後 4 時 30 分までとすると変更になったことによりまして、つくば市教育委員会公印規則に定める公印の管守方法の文言に影響が出ることから、実際に即した表現に改正するものです。あわせて、つくば市教育委員会公印規則における、実際にその公印を処分する行為である「廃棄」という文言につきまして、公印の使用をやめる行為である「廃止」という実際に

<p>森田教育長</p> <p>委員一同</p> <p>森田教育長</p>	<p>即した表現に改正するものです。なお、いずれの改正につきましても総務部総務課が所管するつくば市公印規則の一部改正と同様の内容となっております。以上です。</p> <p>ただいまの説明に関して質問や確認事項がありましたらお願いします。よろしいですか。では承認することとしてよろしいですか。</p> <p>はい。</p> <p>では承認するものいたします。</p>
<p>(10)議案第 67 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（公開）</p>	
<p>森田教育長</p> <p>委員一同</p> <p>森田教育長</p> <p>和泉委員</p> <p>森田教育長</p> <p>和泉委員</p>	<p>続きまして、議案第 67 号です。教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について審議をしたいと思います。これについては事前に資料をお配りしており、目を通していただいているかと思っておりますので、説明を省いて質問から行いたいと思います。質問後に、1 件ずつ拡大継続縮小のいずれとするかを決められればと思います。</p> <p>最初に 9 ページ、「教え」から「学び」へ推進事業です。質問がある方はお願いいたします。質問が無いようでしたら、右下の一番右下のところにあります拡大継続縮小という点について判断をしていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。継続でよろしいですか。</p> <p>はい。</p> <p>では、継続とします。続いて 11 ページ、人権教育推進事業です。質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。和泉委員、大丈夫ですか。質問や意見がありましたらどうぞ。</p> <p>補足的に各課からそういった観点は示されないのですね。</p> <p>そうですね、質問があれば各課から回答する形です。</p> <p>わかりました、ありがとうございます。今後の進め方を読んだ上での</p>

森田教育長	<p>意見です。前回報告があった竹園東小学校の事例にも関連するのですが、人権教育を今までの研修や内容だけではなくて、もう少し拡大するのが良いのではないかと思います。ここでは対象が児童生徒だけなのですが、例えば保護者や教員に対する人権教育があると良いのではないのでしょうか。別の枠組みなのかもしれませんが、いずれにせよ人権教育推進事業は、拡大が望ましいのではないかと思います。</p> <p>それについては、学び推進課はどうですか。</p>
岡野学び推進課長	<p>今おっしゃったように、教員の人権感覚を高めるということは大事な視点ととらえております。17の人権課題がある中で、いじめとLGBTを特化して進めてきているわけですが、子供への人権意識等も含めてこれまでも研修を実施しており、学校計画訪問の際には指導等をしているところです。これまで以上に、その点についてはしっかりと確認、指導していきたいと考えております。</p>
柳瀬委員	<p>よろしいでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、柳瀬委員どうぞ。</p>
柳瀬委員	<p>事業の目標は、全国学力・学習状況調査から引っ張ってきているということですね。学識経験者からの意見でも、素晴らしい割合で到達目標をクリアしていると書いてありますが、これは子供たちの認識ということですね。この目標項目の設定は、もう少しわかりやすい設定の方が良いのではないかと思います。例えば、研修を受けた教員の実施率等、具体的な目標を設定した方が良いのではないのでしょうか。例を細かく上げられないのですが、そういった指標はあり得るかと思います。いかがでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、学び推進課。</p>
岡野学び推進課長	<p>おっしゃるように、目標の指標は子供に対してということで、学力・学習状況調査のところから目標を設定しておりますので、教員等に対し</p>

	ての目標も今後検討して入れていければと思います。
森田教育長	ということであれば、子供たちの面は継続で、教員や保護者の面ではもう少しということでしょうかね。
柳瀬委員	幅広く捉えれば、子供の権利条約とか、そういったところまで含まれるのではないかと思います。そういった意味で人権教育の概念を拡大していただきたいと思います。もちろん LGBTQ の問題も、現在検討中だと思いますので、ここは拡大とするのが良いと思います。
森田教育長	和泉委員もそのような考えでよろしいですか。
和泉委員	はい。あとは、ルールメイキングプロジェクトもつまりは子供の意見表明や社会参加する権利を学ぶということで、子供の権利条約に尽きるかと思えますし、それについての取組みも加えるのが良いと思います。
森田教育長	いずれにしても、権利条約についての教員の理解など、もう少ししっかりやっていかないといけないかと思います。対象者については、子供に特化して書いたような感じもあるので、教員や保護者のことなども今度に入れても良いのではないかという意味を含めて、拡大にしてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。それでは 13 ページ、芸術文化活動推進事業です。質問がありましたらお願いします。
柳瀬委員	よろしいですか。
森田教育長	はい、どうぞ。
柳瀬委員	豊かな心育成事業から拡大していくということですね。これは新規の事業と考えるのか、それとも継続した事業と考えるのか、どちらで

	しょうか。
森田教育長	はい、教育総務課。
山岡教育総務課長	事業としては、新規というより拡大かと思います。元々学園ごとに実施していたものを、学校ごとに対象を広げていくというもので、より充実させていくという形でとらえています。
森田教育長	もうすでに拡大の方向で動いているということですね。
柳瀬委員	この報告書は令和4年度の実績についてということですね。
和泉委員	ここで言う拡大継続縮小というのは、令和4年度の事業のことではなくて、今後についてという理解でよろしいでしょうか。
森田教育長	そうですね。
和泉委員	わかりました。
森田教育長	もうすでに総合教育会議や教育委員会の議論の中で拡大しようということになって、その方向で動いていますので、これも拡大としてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。では15ページ、特別支援教育相談事業です。質問等がありましたらお願いします。
倉田委員	予算額と決算額の差が大きいです、これはなぜでしょうか。
森田教育長	予算額に対して、決算額が小さかった理由ということです。特別支援教育推進室、お願いします。

中島特別支援教育推進室	<p>予算額については、医療的ケア児が令和4年度から入りましたので、訪問看護の看護師を初めて入れたことによる金額が大部分です。ただ、実際には入ってきたお子さんが入院していたり、お休みがあったりして、通園する期間がかなり少なくなった状況があり、決算額が小さくなっています。</p>
森田教育長	<p>他には質問はいかがですか。無いようでしたら、拡大継続縮小についてはいかがでしょうか。継続でよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>それでは継続とすることといたします。では17ページ、不登校児童生徒支援事業です。これについてはいかがでしょうか。</p> <p>いろいろと教育委員会の中での議論もあって、また去年からの推移もあって、すでに拡大の方向で動いていると言って良いのでしょうか。</p>
柳瀬委員	<p>ただ、これも同じで、事業の目標値については見直すのが良いと思います。</p>
森田教育長	<p>事業の目標値は再度吟味するということも含め、事業は実際に拡大する方向で進めるということで、拡大でよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。続いて、19ページの教育相談事業です。学校生活相談員やカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等もここに入りますが、いかがでしょうか。質問があればお願いします。はい、和泉委員どうぞ。</p>
和泉委員	<p>内部評価の2段落目の最後に、「相談員の増員が必要である」と記載がありますが、もう少し具体的な数字が分かれば教えていただけますか。</p>

森田教育長	はい、教育相談センター。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長	つくしの広場には現在 22 名が在籍しており、さらに 6 名の体験生がい ますので、30 名近くがいる状況です。それに対して、つくしの広場の相 談員は 3 名となっております。できれば相談員 1 人に対して利用者 5 名 程度としたいと考えておりますので、あと数名を増やすことができれば と考えております。
柳瀬委員	よろしいですか。
森田教育長	はい、柳瀬委員どうぞ。
柳瀬委員	つくしの広場についてはわかりました。ここにこ広場については一切 触れていませんが、委託事業については、別立てなののでしょうかです か。相談事業ではないということですかね。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長	ここにこ広場の方は不登校支援事業の一部と考えておりまして、教育 相談センターとしては、このような形で事業を持っております。
柳瀬委員	相談員としてつくしの広場で支援にあたっているということですね。 つくしの広場は教育支援センターということですが、ここにこ広場は教 育支援センターという扱いはしていないのですか。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長	はい。教育支援センターではなく、民間のフリースクールに委託して いるものです。
柳瀬委員	相談業務はそこに入っていないということですか。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長	ここにこ広場ではカウンセラーを配置するなどして、相談事業は実施 しております。
柳瀬委員	ただ、ここでいう教育相談事業の中には人数としては入っていないと いうことですね。

久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長 森田教育長	はい、そのとおりです。 実際に予算要求については、今のところは増員で要求しているのでは たかね。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長 森田教育長	つくしの広場については、今年度はしておりません。といいますの も、10月11月になって急に相談が増えており、少々見通しが立たないと ころがある状況です。 カウンセラーとスクールソーシャルワーカーは、増員で要求したとい うことですね。
久松学び推進課 参事兼教育相談 センター所長 森田教育長	はい、そのとおりです。 では来年度についてですが、いかがでしょうか。
柳瀬委員 森田教育長	現状としては、やはり拡大しなければいけないという考えですかね。 そうですね。拡大しなければいけないし、全部ではないものの拡大の 方向で動いているという状況です。
倉田委員 森田教育長	実績値も上がっていますからね。 そうですね。実際に人を増やせば、それに応じたニーズがあることが 証明されていますし。
柳瀬委員	私はまだ不登校支援や相談の全体が把握しきれてないのですが、その 辺りも並行して行っていく必要があると思います。すべて教育相談から スタートすると考えれば、教育相談をしっかり拡大するのが良いと思 います。

森田教育長	では拡大ということによろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのようにいたします。では21ページ、「教え」から「学び」へを担う教職員研修事業です。こちらについてはいかがでしょうか。はい、和泉委員どうぞ。
和泉委員	事業の目標と少し関連するのですが、実際にこの種の研修を受けて、授業で実践してみてどうだったか、そういった手応えなり課題なりについても、目標として挙げるのが良いのではないかと思います。目標項目は一つのみでしょうか。
森田教育長	はい、総合教育研究所。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	現在は総合教育研究所で行っている研修講座についての満足度を聞いている状態でございます。茨城県で行っている全く別の研修がたくさんありますので、市では絞り込んで実施しているところがあります。現状はそのような状況です。
和泉委員	本筋からは外れる気もしますが、研修を受けて実際どうなのかという振り返りの部分について、調査するなど、振り返る機会がすごく大事ではないかと思います。一度やって終わりではないと思いますので。
森田教育長	強化月間の中で、授業の満足度や授業に対する取り組みの仕方について評価しているので、その中から大事な部分を入れていくのも一つの手ですかね。そうすると、研修がどれだけ子供たちにはね返ってきたのかというのが見えるかもしれないので、来年度は事業目標の測定について考えて、工夫したいと思います。
柳瀬委員	よろしいでしょうか。

森田教育長	はい、柳瀬委員どうぞ。
柳瀬委員	これは悉皆研修ですよ。ICT関係が充実してきているのはわかりました。一方で、もう一つの目玉でもあるつくばスタイル科について、教員の自主的な研修のようなものが非常に大事かと思っています。その部分が少し弱いような気がするのですがいかがでしょうか。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	おっしゃるように、年度の初めはつくばに初めて赴任する先生もいるので、先生方に向けてはつくばスタイル科というものがあるということをまずお伝えしております。また、つくばスタイル科のワーキンググループを作って、つくばスタイル科を担当する教員が各学園から1名ずつ集まるなどしており、形態を変えながら年間を通して行っています。今後につくばスタイル科についてはずっと考え続けなければいけないわけですが、新しいプランを創造し、いろいろな力を身につけてきたわけですので、それに向けてどのように取り組んでいくかについては、今後を進めていくということです。希望研修のようなものを増やすこともできなくはないのですが、平日の放課後の時間に先生方を集めるのは、すでにかなり限界というところまで来ています。
柳瀬委員	そうしますと、個別最適な研修というのを模索する必要があると思います。悉皆研修ではなくて、希望研修というものを拡大していただきたいと私は思います。
倉田委員	よろしいでしょうか。
森田教育長	はい、倉田委員どうぞ。
倉田委員	私の意見としては、学園内・校内研修を充実させて、それぞれの課題を追求していくような研修のあり方がこれから望まれるかと思います。そうすることで、すべての先生に研修の機会を与えられるような方向が見出せると思いますので、そのような充実を図ることが望ましいかと考えます。

和泉委員	教職員支援機構（NITS）と提携したのは、今年の2月でしたかね。
森田教育長	2023年の2月ですね。
和泉委員	そうですね。今後の進め方の中で、NITSとの連携や、共同して進めることについてせっかくですの言及しても良いのではないかと思いました。
森田教育長	ありがとうございます。この部分は研修全体ということではなく、総合教育研究所が実施している事業となっていて、研修全体についてはなかなかこの紙全体に表現できないところもある状況です。
柳瀬委員	また目標の話になってしまいますが、満足度について目標値の80%に対して90%の実績値となっているのは、高すぎる気がします。問題意識や課題を持っていると、90%という数値は出ないような気がするのです。実績値が高かったことについて、単純に良かったと評価することはできないかと思うのですがいかがですか。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	これは、例えば学級経営講座であれば、指導主事が集まって話をするのですが、新型コロナウイルス感染症の影響があつてなかなか対面で話すことができない状況が続いていた中で、令和4年度は久しぶりに先生方が対面で集まることができて、それがとても良かったという声を聞いています。そういった部分が強く出ているのは確認しているところです。
森田教育長	みんなで話し合うことの良さを改めて実感したということですね。
柳瀬委員	分かりました。ただ、そうすると、やはり主観的な評価ということになってしまうので、もう少し客観性のある指標が欲しいと思います。研修であれば、全体に対しての研修の実施率みたいところはもう明らかですよね。そもそも回数も少ないでしょうし、全体の研修の数を何件増加させるかなど、数値目標があっても良いかと思えます。現実的には難しいのかもしれないですが。

山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所	先ほど申し上げた茨城県の教育研修センターで実施している研修が年間百何十件とありまして、自主研修や希望研修を増やすと、そのことに対する先生方からの反発も当然ながらありますので、そこは様子を見ながらやっているところです。
成島委員	予算額よりも決算額が小さくなっているのはどういった事情でしょうか。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所	これは講師の先生を内部で調達しているとか、一部の研修をオンラインで実施したとか、そういった様々な理由によるものです。外部の先生を講師として呼ぶ方が良い場合には、今後も呼んでいきたいと思っております。
森田教育長	予算を最大限に確保していたということですね。確かに、県の研修センターでほとんどの項目についての研修があるのですよね。それを補填するような形で、市で独自に実施したい研修を行っているところがあり、難しいところもあります。独自の研修をあまり増やしすぎると、校長会あたりからも意見が出てきますし、一度少し減らしましょうと言って減らした経緯もあるので、なかなか難しいところです。自主的な研修が増えるのが一番良いと思うのですが。
倉田委員	結論としては継続でしょうかね。
柳瀬委員	縮小はないでしょうね。
森田教育長	継続で進めながら、目標設定は少し考えていきたいと思いますということで、継続ということでもよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。続いて、23 ページ、部活動地域移行支援事業です。これについて質問がありましたらお願いします。無いようでしたら

	ら、これに関しては11月の教育委員会で請願が出されて審議しており、拡大しなければならないことは明白なので、拡大で良いでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。では、25ページ、新設校建設事業についてです。質問がありましたらお願いします。
倉田委員	継続で良いと思います。
森田教育長	そうですね。これは地道に継続するしかないものですので、継続とさせていただきます。よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのようにいたします。では、27ページ、特別教室空調設備設置事業についてです。これについてはいかがでしょうか。
倉田委員	これも継続でしょうね。
柳瀬委員	そうですね。
森田教育長	ありがとうございます。それでは計画的に進めていくという意味で、継続とさせていただきます。 続いて、29ページ、学校施設長寿命化計画事業についてです。いかがでしょうか。
倉田委員	継続とするほかないでしょうね。
森田教育長	特に質問がないようであれば、継続でよろしいでしょうか。
委員一同	はい。

森田教育長	<p>ありがとうございます。では、31 ページ、学校等適正配置事業です。何か質問がありましたらお願いします。</p> <p>大きなプランの作成に限らず、見直しは随時行っているものです。また、今度は定期的見直しを行うこととなりますので、その準備に入るところです。いかがでしょうか。</p>
柳瀬委員	<p>継続で良いと思います。</p>
森田教育長	<p>それでは継続ということよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>続いて、33 ページ、給食施設整備事業です。質問等がありましたらお願いします。</p>
倉田委員	<p>進んでいるということであれば、継続で良いのではないのでしょうか。</p>
森田教育長	<p>継続でよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。続いて、35 ページ、地産地消事業です。いかがでしょうか。</p>
倉田委員	<p>これも継続ですかね。</p>
成島委員	<p>拡大といっても難しい部分がありますからね。</p>
森田教育長	<p>目標値を持って、それに向かって進んでいるという意味で言えば、継続となりますが、継続でよろしいのでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>

森田教育長	<p>ありがとうございます。続いて、37 ページ、STEAM 教育推進事業です。質問等がありましたらお願いします。</p> <p>今後の進め方を見ると、さらに多くの講座を企画することを検討しています。STEAM 教育として始まったばかりということもありますが、いかがでしょうか。</p>
倉田委員	理想は拡大の方向とすることだと思います。
和泉委員	よろしいですか。
森田教育長	はい、和泉委員どうぞ。
和泉委員	<p>STEAM 教育の成果というのは、何を見れば良いのでしょうか。事業の目標には、参加率や調査の満足度とありますが、それらはあくまで部分的なものであって、総合的に STEAM 教育が目指すところに本当に到達できているのかというと、違うと思います。何をもちて評価すれば良いのかがよくわかりません。</p>
森田教育長	<p>事業の捉え方というのがまず難しく、事業として行っているものの目標値が書いてあって、ただ、それは STEAM 教育そのものの評価ではないということですね。大事なのは STEAM 教育の成果であって、二段構えのようになってしまっているところもありますね。</p>
柳瀬委員	<p>目標値の一つが参加率となっていて、そうすると、参加した人に関しては目標率が 100%になりますよね。参加した訳ですので。そう考えると、目標値・実績値にあたるものではないですね。それから、予算額が非常に小さいと思います。拡大しなければいけないのではないのでしょうか。</p>
倉田委員	目指すべき方向は拡大だと思います。
和泉委員	<p>すごく横断的な取り組みなので、何かその中でも一つに特化することが必要かもしれません。例えば、つくばスタイル科でのもっと具体的な</p>

	<p>取り組みがあって、そこでの成果を元に目標を立てるなど、もう少し明確にする必要があるかと思います。</p>
森田教育長	<p>いかがでしょうか。はい、総合教育研究所。</p>
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	<p>こちらは総合教育研究所で行っている STEAM 教育に関わる事業のことを書いております。取組みの中で、例えば STEAM コンパス事業などは、科学技術振興課が同課の予算で研究者を招いているもので、こちらの予算には含まれていません。それから、SDGs アニメ・シールコンテストについては、各学校でプログラミングのスクラッチなどを使っていただいて、応募していただいたものを審査する形で行っておりまして、あまりお金が実はかかってないものです。あとは、総合教育研究所に来ていただいて行っているキッズプログラミングのプロジェクトの希望研修講座などは、企業の方々にも講師に入っているという状況です。</p>
森田教育長	<p>はい、成島委員どうぞ。</p>
成島委員	<p>学校によって参加率のばらつきがあるのではないかとと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、総合教育研究所。</p>
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	<p>学校によってもばらつきはありますし、総合教育研究所に送迎をしてもらうことになるので、その点でハードルが高くなってしまっているところがあります。今は夏休みに保護者の送迎に頼っている状況です。</p>
柳瀬委員	<p>STEAM 教育というのをしっかりやってほしいです。今後の進め方のところで 21 世紀型能力の育成と記載がありますが、少々飛躍してしまっていますよね。具体的なことを実施しているのだから、具体的な進め方を書くのが良いはずですが。先ほどは予算をあまり使わずに実施できていると説明がありましたが、本当は潤沢な予算が欲しいわけですよね。長期休業の時の寄附講座に限定しなくても良くなりますから。STEAM 教育推進事</p>

	業というとても大きなテーマなものを、小さくしてしまっている感じがします。ぜひ拡大していただきたいと思います。
森田教育長	はい、総合教育研究所。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所	限られた人員の中で、新たに事業を起こすということが難しいところもございます。私と指導主事が1名、ICT指導員が3名おりますが、現在実施している事業で結構手一杯なところですので。当然このSTEAM教育は各学校や学び推進課にも大きく関わってきますので、協力して進めていきたいと思っています。
柳瀬委員	自力ですべて進めようとするのではなくて、他力本願というか、人を動かす形で事業を進めていかななくてはいけないと思います。大きなテーマですので、総合教育研究所だけで抱え込まない方が良いと思います。今後、その辺りも含めて検討していただきたいと思います。
森田教育長	先ほども言いましたが、STEAM教育そのものが、つくば市の学校全体で取り組んでもらってその中で高めていく部分と、ここに書いてある総合教育研究所で行っている催し物の部分があって、評価の難しさがあるかと思っています。今後つくば市としてSTEAM教育を各学校でどのように進めていくかについては、もう少し綺麗にして、「教え」から「学び」への一部として、進めていく必要があると思いますので、それを整理していく中で、その中でこの事業も進めていければと思います。事業の評価については、参加したからどうこうだけではなくて、子供たちがどうなったのかという中身についても評価すると、見え方も違うだろうと思います。そういったことも含めてSTEAM教育全体で考えていくと、拡大ということでしょうかね。総合教育研究所で実施している事業だけでいえば、人員も足りないということで継続になるでしょうか。
柳瀬委員	この事業を拡大してほしいとなると、それは違う意味になってしまいますからね。
森田教育長	STEAM教育全体を拡大していきましょうという捉え方ですね。和泉委員

	からは何かありますか。
和泉委員	はい、理解しました。ここの事業はあくまで総合教育研究所が実施しているものに限定しているということなのですね。であるならば、つくばスタイル科との接続や、そこでの質的な取組みの展開や発展が重要になってくるかと思いました。
森田教育長	そのとおりだと思います。ということでどうでしょうか。総合教育研究所の事業についてと考えれば継続ですが、STEAM 教育そのものについて私たちは考えていきますという意味を表すのであれば、拡大となるかと思いますが。
柳瀬委員	担当課の意識の問題になってくる気がします。
成島委員	今の話ではキャパシティ的に限界ということでしたね。
森田教育長	では、STEAM 教育そのものはまた別に、和泉委員が言ってくださったように整理していくということを念頭に置きながら、この事業としては継続という形でよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。
成島委員	もう少しよろしいでしょうか。
森田教育長	はい、どうぞ。
成島委員	ありがとうございます。内部評価に記載されているように、学校によってのばらつきが気になるので、もっと出張講座的な方向にするのが良い気がします。
森田教育長	そうですね。科学技術振興課と連携して実施しているものについて

	<p>は、対象を広げていろいろな学校でやってもらうことも含めて考えていきたいと思います。</p> <p>では、39 ページ、デジタル教科書普及促進事業です。こちらについてはいかがでしょうか。</p>
倉田委員	<p>継続で良いかと思います。</p>
森田教育長	<p>まだ国の方で無償化になったとかそういった状況ではなくて、使えるコンテンツだけ使っている状況です。</p>
和泉委員	<p>コンテンツ、ですか。</p>
森田教育長	<p>そうですね、ここで言っているのは、子供が使うデジタル教科書のことです。</p>
柳瀬委員	<p>整備率はすべての教科で 100%なのですか。</p>
森田教育長	<p>教科によって異なります。英語はもうすべての学校に整備されています。</p>
和泉委員	<p>これはいつまでに、例えば 100%を目指すといったロードマップはあるのでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、総合教育研究所。</p>
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	<p>現在は小学校 5、6 年生の外国語の授業で使っている状態で、令和 6 年度から普通の紙の教科書と同じように子供たちに配布される予定です。令和 5 年度に関しては算数と数学は一緒に行っており、社会でも実証事業という形で行っているところです。今後、デジタル教科書をどの程度整備していくかについては、まだ予算がついておりませんので、今後検討していくという状況です。</p>
森田教育長	<p>国の無償給与が、デジタルになるのか紙になるのかという議論がされ</p>

	<p>ていますが、まだ全然決まってない状況です。みんなが両方とも欲しいと言っているのですが、国はどちらか片方にしたいということです。今はとにかく、デジタル教科書も有効であることを証明したいということで、国の方でまずは英語を使ってみたいということで、英語のデジタル教科書を全部の学校で使っていて、あとは教科書会社との連携で、一部の教科で国の予算を使って行っているのが今の状況です。</p>
成島委員	<p>50%というきれいな数字になっていますが、これはなぜでしょうか。</p>
森田教育長	<p>総合教育研究所、お願いします。</p>
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	<p>50%活用したと実際に回答があった学校の数でカウントしています。実際に研修を行うと、どの学校でどのように使ったかが分かります。御存知のように端末の活用は令和4年度に始まったばかりで、始まって間もなくいろいろな活用がある中で、率直に言って学校も学習者用デジタル教科書の活用まで手が回っていませんでした。こちらとしても、アカウントの発行から子供たちが使うというところにかかなりの労力を割かれたという事情がありまして、令和4年度についてはテクニカルの部分でいろいろな反省点が残っているところです。そういった意味での50%です。</p>
成島委員	<p>まだこれからなのですね。</p>
森田教育長	<p>そうですね。英語では、コンピューターが教科書の内容を読んでくれて、それを自由自在に遅くしたり早くしたりすることができるので、音声の練習には非常に有効だという印象を各学校では持っているようです。これは今のところ、逆に言えば拡大のしようがないということでもあって、与えられたものしかできないものの、内容を充実することはできるという状況です。</p>
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	<p>もう1点だけすみません。普通の紙の教科書ではなかったこととして、子供たちがデジタル教科書では結構メモをとれるということです。紙の教科書に書き込むのは結構な抵抗があると思うのですが、デジタル</p>

	教科書には自分たちの好きなように書き込むことができるようで、その点はメリットですし、あとは画面を拡大できることによる効果があることも分かってきたところです。あとは何といてもカバンが軽くなるというメリットもあるようです。
成島委員	どちらも使っている今の状況が、一番カバンが重いですからね。
和泉委員	そうですね。ランドセルが重すぎるという問題がありますよね。
柳瀬委員	活動頻度と書いていますが、頻度というのは使ったら100%で、使ったり使わなかったりの場合は50%ということですかね。活用頻度がパーセントで出てくるのはよくわかりません。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	各学校の5年生から9年生までの英語の整備をさせていただいた中で、頻度に関しては具体的に何回使用したかは分からないのですが、中にはほとんど使っていないところもありました。
柳瀬委員	全然使っていないところが半分あるということですか。
山田学び推進課 参事兼総合教育 研究所長	そのとおりです。ただ、これはあくまで令和4年度の話で、今年度は使っていただいています。
森田教育長	令和4年度は年度の後半になってデジタル教科書が整備されたのでしたよね。いろいろとIDなどを整理するのに結構な時間と手間がかかってしまって、整備が完了しても使わないで終わってしまったような学校があったのは確かです。
柳瀬委員	整備率で100%になりましたということで良いと思います。
森田教育長	ではどのようにしましょうか。継続でよろしいでしょうか。
委員一同	はい。

森田教育長	<p>それでは継続といたします。続いて、41 ページ、自動車図書館事業です。これについて質問がありましたらお願いします。</p>
和泉委員	<p>今後の進め方の中にある、新たなステーションの追加ですが、どこに追加してほしいという要望は届いているのでしょうか。届いているのであれば、何か所ぐらい届いているのでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、中央図書館。</p>
柴原中央図書館長	<p>御要望への対応についてですが、ステーションの設定につきましては、毎年の上半期と下半期が始まるタイミングで見直しを行っております。その中で、ここ数年は高齢者施設から来てほしいという御要望を多く頂いています。高齢者施設でステーションを増やしていった際には、市内の主な高齢者施設に希望調査をしまして、その御要望に応じて時間等を調整しながら伺っているという形です。令和4年度から令和5年度にかけても同様の調査を行っておりまして、今後も継続していきたいと思っております。ただ、先ほど申し上げましたように、これまでは高齢者施設を中心に要望調査をしておりますので、今後はもう少し多種多様な施設、例えば商業施設などにも巡回できないかと考えており、可能性について現在館内で検討しているところです。</p>
和泉委員	<p>ありがとうございます。</p>
森田教育長	<p>他にはよろしいですか。これも拡大するという計画の中で順調に進んでいるというものですが、そのように考えて、継続ということによろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>では継続とします。続いて、43 ページ、電子図書館サービス事業についてです。何か質問がありましたらお願いします。 実際の図書館の手応えとしてはどうですか。</p>

柴原中央図書館 長	<p>昨年の10月からこの図書電子図書館サービスを開始しまして、昨年度末の時点で電子書籍のコンテンツは、1,468点を整備することができました。月ごとの統計を見ますと、10月は初めてつくば市でこのサービスを開始したということもありまして、アクセス数、貸出数は順調に伸びておりました。若干中だるみのような時期もありましたが、現在は1,973点までコンテンツを増やしていることもありまして、利用は増加の傾向にあります。今の利用状況が適切かどうかというのは、まだ判断しかねるところですが、大分定着してきたのではないかという印象があります。現在、小・中学生が自分の学習用端末を活用して、電子書籍を利用することができないかを検討しており、関係課との協議を進めているところです。</p>
森田教育長	<p>そのような状況ということですが、いかがでしょうか。</p>
倉田委員	<p>継続で良いかと思います。</p>
柳瀬委員	<p>すみません、この電子図書の中には、古文書など、実際に物を貸し出すことはできないものを閲覧できるとか、そういったことは含まれますか。</p>
柴原中央図書館 長	<p>現在は、いわゆる市販されている電子書籍に限って対応しておりますが、電子図書館の機能としまして、例えば、つくば市で持っている資料や古文書などの地域資料を電子化して載せることもできます。もちろん容量の制限はありますが、それは契約を変更することで容量を増やすこともできますので、今後はそういった形で、あまり広く出版されていないものも電子化して、つくば市民のみならず、いろいろな方に見ていただくというような方向への展開の可能性はございます。</p>
柳瀬委員	<p>ありがとうございます。それは期待したいですね。文化財課とすり合わせをしていくのはどうでしょうか。貴重な資料がたくさんあることはお伺いしていて、閲覧できるようになると閲覧者も増えるはずですので、自前でそういったことができればすごく良いと思います。</p>

柴原中央図書館長	<p>補足させていただきます。そういった機能があるということは、以前から文化財課ともお話をしています。ただ、文化財課で発行している資料について、1冊の本で複数の著作権者がいる場合は、著作権の処理をしなければ電子図書館に載せられない可能性があります。そういった点について一つずつ適切に対応していく必要がございます。必ずしもつくば市で発行した著作物について、すぐにそのまま電子化してしまっても構わないとはならない場合もあります。</p>
柳瀬委員	<p>その辺りは慎重に進めていただきたいと思います。</p>
森田教育長	<p>これも結論としては継続でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。続いて、45ページ、文化財催事講座等事業です。質問がありましたらお願いします。</p>
柳瀬委員	<p>参加者数は少し回復してきたのでしょうかね。この分野については、以前からいろいろとお願いしているのですが、催事ではなくて講座を充実して行ってほしいと思っています。大河ドラマで鎌倉殿の13人が放送された際にすぐに動いていただけたのはありがたいのですが、自分たちのところでしっかりと講座を行っていただければと思います。私は拡大していただきたいです。予算はもっと必要なのでしょうか。</p>
石橋文化財課長	<p>令和4年度の決算額が大きいのは、大河ドラマ関係のトークショーで費用がかかっているためです。令和5年度予算としましては、令和4年度当初予算額に、物価の上昇分が加わった金額となっています。ですので、令和4年度の決算額が少し特殊な状況です。当初予算ではなく補正予算でトークショーを開催しましたので、決算額だけが大きくなっている状況です。</p>
柳瀬委員	<p>前から言っているつくばスタイルとの連携とかですね、学校訪問学習会ですね、その辺りはまだまだ戻ってないわけですね。その辺りが盛</p>

	んになるような仕掛けといたしますか、働きかけはできますかね。
石橋文化財課長	来場者数としては昨年度の後半ぐらいから大分回復しつつあるのですが、昨年度の段階では、特に学校が団体バスで来るというのが、あまり回復していませんでした。今年度もまだ少し出遅れているような印象はございます。ですので、学校や子供、家族に対する事業というのは強化していきたいと考えています。
柳瀬委員	あとは出前授業ですね。今はほとんど無いですよ。
石橋文化財課長	私たちとしてはできれば現地に来ていただいて説明する方が教えられることが多いと思っています。出前授業は要望があればお応えしていますが、今年度については、出前授業もあるものの、どちらかというとも来ってもらう方がまだ件数としては多いような状況です。
柳瀬委員	つくばスタイル科の充実と連携して、講座を増やしていただきたいです。こういったものがあるのだと分かれば、広がっていくと思います。なかなか先生方で、プログラムするイメージができてないように思います。つくばスタイル科の中に文化財の関係を入れていくというのがまだ少々弱いかなと思うので、何とか頑張りたいです。
石橋文化財課長	学校の先生方への研修については、コロナ禍の間はできていなかったのですが、今年度に関しては社会科教育研究会と連携して、市内の文化財関係施設などへ行って、こういったことができるというような話をさせていただく機会を頂きましたので、それは継続していきたいと思えます。
森田教育長	では、これについては継続でよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。続いて、47ページ、平沢官衙遺跡再整備事業です。これについてはいかがでしょうか。これは計画どおりに進んでい

	るといところで、特に無いようであれば、継続でよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	それではそのようにいたします。それでは、49 ページ、つくばちびっ子博士事業です。何か質問がありましたらお願いします。
成島委員	結局これは親の協力ありきなのですよね。もう少し学校単位でできないものかと思うのですが。
森田教育長	夏休みに親子で楽しんでくださいというものになっていますね。
柳瀬委員	正直なところ、デジタル化の評判はどうですか。
澤頭生涯学習推進課長	最近まで新型コロナウイルス感染症の影響があつて、参加者数はそれ以前の水準に戻っていませんが、一定数の子供たちに例年参加していただいております。楽しみにしていただいているのではないかと感じております。
森田教育長	今年度は大分戻ってきているという状況ですよね。
柳瀬委員	これは STEAM コンパスと連携しているのですよね。
森田教育長	そうですね。
成島委員	デジタルパスポートの件は今年からですかね。
森田教育長	今年からですね。
柳瀬委員	子供たちは抵抗が無いでしょうけど、親の方はあるかもしれないですよ。
和泉委員	親も楽しかったですよ。

森田教育長	そうですね、私も連れて行きました。
成島委員	デジタルパスポートを使うには、学習者用端末を持っていくのでしたかね。
森田教育長	スマートフォンでも良いのですが、できれば学習者用端末の方が良いとしていますね。 計画したことが進んでいるということですが、継続でよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では継続とします。最後に、51 ページ、コミュニティ・スクール導入事業です。これについて質問はありますか。はい、どうぞ。
和泉委員	事業費の予算額と決算額の間に大きな開きがありますが、これはなぜでしょうか。
森田教育長	はい、生涯学習推進課。
澤頭生涯学習推進課長	コミュニティ・スクールの事業費に関しましては、人件費が大部分を占めております。コミュニティ・スクール協議会の委員は学園ごとに 30 人以内となっておりますので、上限の 30 人を想定して予算を要求しているところですが、まだ導入の当初ということもありまして、30 人より少ない人をまずは任命しているという状況でございます。そういったところで、予算額と決算額の間が開きがございます。
森田教育長	これについても、令和 4 年度の決算額の話ですね。
和泉委員	ということは、令和 5 年度は導入する学園が増えたので、その分要求額が大きくなっているということですか。

澤頭生涯学習推進課長	令和4年度はコミュニティ・スクール推進会議の構成員という位置づけでしたので、今年度は少し予算が大きくなっております。
森田教育長	令和4年度は協議会が1学園、推進会議が8学園で、それに対する予算でした。今年度は、協議会が9学園、推進会議が6学園となっています。
成島委員	これは拡大する方向ですかね。
倉田委員	拡大しかないですね。
森田教育長	よろしいでしょうか。では、拡大とさせていただきます。
5 その他	
森田教育長	その他については、今回は議案の提案等はありませんでしたので、また何かありましたらメール等でお知らせいただければと思います。よろしく申し上げます。
6 閉会	
森田教育長	以上をもちまして、11月定例会を閉会します。長時間ありがとうございました。

◎会議録の調製

署名年月日	令和5年(2023年) 12月21日
調製者	吉沼 正美